



国民を解放する 脱施設化への長い道のりからの最新情報

著者:

ナタリー・スパニョーロ, コリー・アール

2017年7月4日



この写真の中で何が起きているのでしょうか？

これはヒューロニアの古い写真です。ヒューロニアは、知的障害のある人々のための施設でした。写真は、施設に住んでいた人々が寝ていた場所を示しています。この写真はトロント・スターという新聞のためにマリオ・ジオが撮ったものです。

何が問題ですか？

大人として、これがあなたの人生だったらと想像してみてください。

いつ寝るか、いつ食べるか、何を食べるかを指示されます。

自分の家の鍵を持たせない、または訪問者を迎えることはできないと言われます。

子供を産めないために手術を強いられる。

10年以上働いていても、時給はわずか1.26ドルです。

障害があるから投票できないと言われます。

自分で決断できないと言われます。

あなたは「子供の心」を持っていると言われます。

あなたは生まれるべきではなかったと言われます。

私たちの国では、ほとんどの大人がこの種の虐待や無礼を容認しません。しかし、知的障害のある人々にとって、この種の治療は日常生活の一部です。

彼らは社会の残りの部分から隔離された施設やその他の場所で暮らすことを余儀なくされています。彼らは最低賃金を大幅に下回る「保護作業場」で働いている。彼らは仕事に就けないため、貧困の中で暮らしています。たとえ生活保護を受けていても、その受給率が非常に低いため、彼らは依然として貧困の中で暮らしています。彼らは「法的能力」を奪われてしまったのです。

法的能力とは、決定を下し、それに従わせる権利のことです。それは、法の前に完全な国民として扱われることです。他の多くの人々は、知的障害のある人は障害のせいで自分で決定を下すことができないと考えています。彼らは多くの場合、代理意思決定者の管理下に置かれます。その意思決定者はお金を管理し、人生に関するその他の決定を下します。このため、知的障害のある人々が自分たちの権利や平等な扱いを求めて戦うことが困難になっています。

これらの状況は、私たちの歴史の初期の時代から残っています。知的障害のある人々は子供を産めないように不妊手術を受けるといった法律が制定されて以来、私たちは長い道のりを歩んできました。しかし、知的障害のある人々は他の人々よりも「劣っている」という考えは依然として存在します。その考え方はサービスやポリシーの作り方に影響を与えます。

政府は、施設や保護された作業場が人々を守るのに役立つと主張している。しかし実際には、これらの場所は人を虐待や虐待の危険にさらす可能性があります。それらは確かに人々が社会に参加するのに役立ちません。

私たちが社会として、あるグループの人々が「脆弱」である、または保護される必要があると言う場合でも、それが彼らの権利に悪影響を与える可能性があります。それは当局に「それが彼らの最善の利益である」と言って、個人の権利を制限する理由を与える可能性がある。

カナダのピープル・ファーストのような主要組織は、この問題の先頭に立っている組織の一つです。カナダのピープル・ファーストは、知的障害のある人々の全国的な声です。彼らは研究を主導し、内部告発を行い、行動を指揮しています。障害者コミュニティでは、「**私たちがなしでは私たちには関係ない**」という言葉は、私たちが社会の一員になるためには私たちも含められる必要があることを意味します。

政府とともに変化を主導するのは、知的障害のある人々、その家族、支援者です。彼らは、この国の施設が閉鎖されるたびに、長く懸命に闘ってきました。機関を閉鎖する動きは何十年も続いているが、戦いはまだ終わっていない。

この国では、知的障害のある人々が劣悪な状況で暮らし続けるために、多くの要因が絡み合っています。このグループが私たちの社会でいかにうまくやっていないかを示す多くの研究があります。このグループの状況を改善するために十分な取り組みが行われていません。

知的障害を持ち、この国に住むことには多くのリスクがあります。以下の分野と、知的障害を持つ人々がどのような影響を受けるかを見てください。

住宅とホームレス

障害のある人の多くは、さまざまな理由から、安全で手頃な価格の住宅を得ることができません。

我が国では、ホームレスの約 45% が自分も障害者であると述べています。このグループ内には、他の種類の障害を持つ人よりも知的障害を持つ人の数が多くなります。

カナダでは知的障害のある成人 10 万人以上が安全な住居やサポートを受けていません。オンタリオ州だけでも約1万人の知的障害者が住宅支援の待機リストに入っている。このリストにある推定待ち時間は 22 年です。

暴力

知的障害のある人々は、障害のない人々よりも多くの暴力にさらされています。彼らは身体的暴行を受ける可能性が3倍高い。また、性的暴行を受ける可能性も10倍以上高い。

障害のある女性の 80% 以上が、生涯にわたって性的虐待の被害者となるでしょう。このグループでは、知的障害のある女性と少女が他のグループよりも高いリスクにさらされています。障害のある女性に対する性的虐待が当局に報告されるのは、5 件に 1 件のみです。

差別

障害のある人々は多くの差別に直面しています。彼らは障害のない人々と公平に、あるいは同じように扱われていません。

カナダでは、すべての差別事件の半数が障害に関連しています。このグループ内では、知的障害のある人は他の障害者よりも不公平または有害な扱いを受けています。また、彼らは他の人々よりも犯罪の被害者になる可能性が高くなります。

貧困と雇用

知的障害のある人々はカナダで最も貧しい人々の一つです。彼らは他の障害者の4倍も社会扶助を利用している。多くは貧困線以下で暮らしています。これは、食料、住宅、医薬品などの基本的なニーズを満たすのに十分なお金がないことを意味します。

知的障害のある人が仕事に就くにも多くの障壁があります。彼らの就職率は非常に低いです。カナダでは、障害のない人の74%が働いています。その他の障害のある人の場合、約47%が仕事を持っています。しかし、知的障害のある人のうち仕事に就いている人はわずか25%です。

満たされていない健康ニーズ

知的障害のある人は、精神的健康障害の割合が最も高い人々の一部です。これは、彼らがメンタルヘルスサービスの必要性が高いことを意味します。しかし、集団としては、メンタルヘルスの方針や研修において、彼らは無視され無視されています。

今日の施設化

カナダには知的障害のある人々のための大規模な施設がまだあることを知って、多くの人々がショックを受けています。

これらは住むのに良い場所ではありません。かつては有刺鉄線の柵に囲まれた古い建物でした。ドアは閉まるとすべてロックされます。自由もプライバシーもありません。タイムアウトルームもありません。スタッフは人々を拘束し、治療するための訓練を受けています。これらは過去の話ではありません。これはホラー映画ではありません。これらの場所は今でも我が国に存在し、運営されています。これらは、必要がなければ誰もが住むことを選択する場所ではありません。

私たちの国には、施設で暮らしている知的障害のある人が何千人もいます。彼らは「送り返される」ことを恐れています。その恐れには十分な理由があります。

現在、我が国では約900人の知的障害者が大規模な施設で暮らしています。これらの施設には100床以上のベッドがあります。それらはプレーリー州(マニトバ州、サスカチュワン州、アルバータ州)にあります。

なぜ私たちは知的障害のある人々を施設に収容し続けるのでしょうか? 過去の考えからの名残があります。これらの考えには、知的障害のある人々を社会から遠ざけることが含まれます。これには、彼らの法的権利を制限することも含まれます。しかし、主な理由は、一部の人々は地域社会で

生活するには「障害が重すぎる」という一般的な考えのようです。

カナダのピープル・ファーストやカナダの他の多くの国内障害者団体は、これが真実であるとは全く信じていません。彼らは、適切なサポートがあれば、すべての人がコミュニティで生活できると信じています。彼らは、障害の有無に関わらず、いかなる人も地域社会から隔離されるような状況で生きるべきではないと信じています。

彼らは、カナダの大規模機関はすべて閉鎖される必要があると強く信じています。彼らは、機関が開かれたままであれば、使用され続けると信じています。「最後の手段」とは呼ばれていますが、一部の人にとっては最初の、または唯一の手段として使用されます。待機リストが長すぎる場合や、その人が地域生活するには「障害が大きすぎる」と言われた場合などです。

知的障害のある人々が他の「施設環境」に収容されるリスクもあります。これらは、グループホーム、地域居住センター、老人ホーム、パーソナルケアホームなどの場所です。彼らは刑務所、ホームレス保護施設、病院に送られることさえあります。

医療の必要がないのに障害のある人々を病院に留めておくことは、施設化の一形態です。非常に高価でもあります。オンタリオ州では、医療の必要のない人を病院のベッドに寝かせるのに1日約1,250ドルかかりました。しかし、地域社会のグループホームで彼らをサポートする平均費用ははるかに安価です。1日あたり約60ドルから850ドルの範囲です。

金融機関を閉鎖する経済的理由は簡単にわかります。ほとんどの人はこれが州政府が機関を閉鎖した理由だと考えている。他の理由でこれらの機関を閉鎖していたら、私たちの社会にとってははるかに良かったでしょう。施設内の人々に起こっていた虐待と無視を理由に、私たちは施設を閉鎖すべきでした。

オンタリオ州は経費節約のため、2009年にヒューロニアセンター、リドー地域センター、サウスウエスタンセンターを含む3大機関を閉鎖した。ウィン首相は生存者に謝罪した。10年前の1999年、アルバータ州政府は知的障害のある人々に謝罪した。これは、その州の施設の人々に起こった強制不妊手術に対するものでした。

施設で生活している人は暴力を受けるリスクが高くなります。州の機関に対する訴訟では、次のような虐待状況が報告されています。

女性に対する性的暴行の発生率が高かった。

人々は集団でシャワーを浴びることを強制された。プライバシーはありませんでした。

人々は物理的に何かをすることを強制されました。時には電気動物の道具が人間に使用されることもありました。

人々は歯を抜くなど、必要のない手術を強いられました。子供を産めないように手術を受ける人もいた。

知的障害のある人々にとって施設がいかに悪いものであるかを示す研究や個人的な話が私たちにはたくさんあります。しかし、依然としてこの国では多くの機関が資金提供を受け続けている。

施設が閉鎖された後に何が起こるかは、閉鎖自体と同じくらい重要です。私たちは、生存者の物語とこれらの場所の歴史を記憶に残す方法を用意しなければなりません。私たちは将来の意思決定にもこれらの教訓を活用しなければなりません。

多くの自己擁護者は、自分たちのストーリーを共有することが、さらなる組織化を防ぐのに役立つと信じています。彼らはまた、結果を残せなかった人々のストーリーも共有します。彼らは自分たちの経験を共有し、同じことが二度と他の人に起こらないようにします。

オンタリオ州にあるヒューロニア施設の敷地が間もなく売りに出される可能性がある。この施設の生存者たちは、ひどい虐待を受け、無視されたと語った。ここにはお墓や人が埋葬されています。しかし敷地は非常に広く、一等地と見る人もいる。オンタリオ州政府は現在、ヒューロニアとその敷地に何が起こるべきかについて国民と協議している。協議の結果は2017年春に判明する予定だ。

相談の質問の1つは、「ヒューロニアは文化および/またはレクリエーションの開発に適切な場所だと思いますか?」です。ヒューロニアをアルバータ州のバンフ芸術創造センターのような場所にしたいと考えているグループがあるからだ。

このグループを率いる人々は、ヒューロニアの生存者は施設や敷地の歴史に「こだわる」べきではないと考えている。一方、ヒューロニアの生存者たちは、ヒューロニアの将来の計画にヒューロニアのことも含めるべきだと考えている。これらの場所が何か別の目的で使用される場合、彼らは何が起こるかについて発言権を求めます。それは少なくとも包摂性を示すことになるでしょうが、それは起こっていません。

施設を閉鎖し、生存者に正義をもたらすことが重要です。それは過去の過ちの記憶を尊厳あるものにするということです。それは彼らの権利の侵害を理解することです。それは意思決定に対する彼らの権利を認めることです。それはまた、今日多くの知的障害のある人々が暮らす孤立と貧困と闘うことでもあります。それは、尊厳のある標準的なサポートを受ける権利を認めることです。それは将来

の被害を防ぐことです。結局のところ、それは知的障害のある人々の人間性を認識することなのです。

グループホームとその他の施設への道のり

カナダのピープルファーストでは、施設の定義にグループホームが含まれています。彼らは機関を次のように定義しています。

あらゆる施設とは、知的障害があるとレッテルを貼られた人々が隔離され、隔離され、および/または集まる場所です。施設とは、人々が自分の生活や日々の決定を制御できない、または行使することを許可されていない場所です。組織はその規模だけで定義されるものではありません。

カナダのピープル・ファーストは、知的障害のある人々を不適切に収容するあらゆる規模や形態の施設を閉鎖すべきだと考えています。これには、数百人が参加する大規模な施設だけでなく、数人しか参加しない小規模な住宅も含まれます。グループホームも含まれます。

施設が閉鎖されると、元入居者の多くはグループホームで暮らすことになる。どの州や準州にもグループホームはあるが、そこに何人が住んでいるのかは分からない。そして、グループホームやそれを運営し続けるシステムにどれだけのお金が使われているのかもわかりません。

私たちが知っていることをいくつか紹介します。

知的障害のある成人約 30,000 人が大規模な介護施設やグループホームで生活しています。

知的障害のある65歳未満の成人約1万人が、病院や老人ホームなどの高齢者向けの施設での生活を余儀なくされている。他に選択肢がないため、彼らはこのような場所に住まざるを得ません。

グループホームの運営方法は、多くの場合、施設の運営方法と非常に似ています。多くの場合、施設で働いていた同じスタッフが現在グループホームで働いています。グループホームはよく似ているため、「ミニ施設」と呼ばれることもあります。こうしたミニ機関を運営する組織にとって、それはビジネスです。

グループホームは、地域社会への包摂の一形態であると考えられがちです。このサービスを提供する代理店はそう言っていますが、実際はそうではありません。それらは通常、施設化の一形態にすぎません。これらの場所で、人々はどこで誰と暮らすかを選択することはできません。住民には日

常生活において選択の余地がありません。彼らは、セルフ・アドボカシーについて学んだり、興味のあるグループに参加したりする機会がほとんどありません。生活はスタッフとグループホームを運営するビジネスを中心に回っています。

サポートスタッフの給与が低いため、離職率が高くなる可能性があります。これは、給与が悪いため、スタッフはそこに長く留まらないことを意味します。彼らは辞めてしまい、代わりに新しい労働者が来なければなりません。サポートスタッフの低賃金とトレーニングの不足は、仕事にあまり価値が見出されないことを示しています。これを変える必要があります。サポート業務は重要であるため、スタッフにはトレーニングと適切な賃金が必要です。

グループホームやその他の大規模な居住型介護施設は、知的障害を持つ人々にとって非常に危険な場合があります。実際、それらはほとんど誰にとっても危険である可能性があります。地元および全国ニュースでは、カナダ全土の養護施設でのネグレクト、虐待、暴行、さらには殺人についての記事が多すぎます。グループホームやその他の知的障害者向けの介護施設でも同じことが起きている。

サポートスタッフが身の危険を感じて警察に通報しても、障害のある人にとっては通常、うまくいきません。グループホームでは人が怪我をしたり亡くなったりする。2009年の調査によると、オンタリオ州では長年にわたってグループホームで53人が死亡していた。

最近、グループホームの入居者が警察によってテーザー銃で撃たれ、射殺される例があった。これらの人々の中には言葉を話さない人もいました。暴力の被害者になりやすい他の要因を抱えている人もいた。これには、先住民族または黒人であることが含まれます。

警察によって負傷または殺害された障害のある人の例をいくつか紹介します。

2009年、ダグラス・ミンティは警察に射殺された。彼はオンタリオ州エルムベールに住んでいました。

2010年、アーロン・ファーマンはグループホームで警察のテーザー銃による銃撃を受けて死亡した。彼はオンタリオ州コリングウッドに住んでいました。

2016年、アブディラフマン・アブディは警察によって殺害された。彼はオタワに住んでいました。彼は黒人、ソマリア人、そしてイスラム教徒でした。

2016年、マーロン・ベイリー・リーさんはオンタリオ州ブランプトンのグループホームで警察にテーザー銃を撃たれた。ベイリー・リー氏は言葉が通じず、黒人です。グループホームの職員らと口論になり、警察に通報された。

グループホームに住んでいる人も、支援スタッフによる暴行罪で起訴される可能性がある。これにより、彼らは司法制度の対象となる可能性があります。その人物を司法制度から排除するのは非常に難しい場合があります。

ノバスコシア州で最近起きた事件は解決までに7年かかった。女性は暴行容疑で起訴された。スタッフによると、彼女は靴と泡立てた手紙を投げつけたほか、彼らに噛みつこうとしたという。カナダのピープル・ファーストも彼女の告発と扱いに抗議した人々の一人だった。知的障害のある人たちを支援するはずの制度によって犯罪者にされるのは、明らかにその制度に問題がある。

シェルター付き作業場では賃金が極めて低い

保護作業所は、障害のある人だけが雇用される場所です。彼らの賃金は最低賃金よりはるかに低いです。時給はわずか 1.26 ドルです。保護作業所の背後にあるアイデアは、他に仕事を見つけることができない障害者に「訓練賃金」を与えることでした。低賃金を容認する政策に適合させるために、それらは「社会参加」あるいは「技能開発」と呼ばれた。

最近の研究では、保護作業場にいる知的障害者の数が減少している可能性があることが示されています。しかし、実際のところはわかりません。全国のこうした保護作業所で何人の障害者が働いているのか、正確な数字を把握するのは難しい。

一部の数字はトロント・スター紙から引用したものです。2015年11月、彼らはオンタリオ州の保護された作業場に関する情報を探しました。彼らはオンタリオ州地域社会福祉省に尋ねた。同省はあまり情報を持っていなかった。

同省はアンケートを実施したが、回答したのは避難所ワークショップを提供する機関の半数未満だった。その調査によると、州内の52か所の保護作業所で約3,500人の障害者が働いていると報告されました。

これらの記事が出て以来、オンタリオ州省は屋内作業場を永久に閉鎖すると発表した。おそらくこれにより、その州の保護作業所にいる障害者の数は減少したが、それを裏付ける実際の数字はない。他の地方では、「研修プログラム」という名称のため、こうしたワークショップの多くは今後

も継続されるだろう。

カナダのピープル・ファーストは、すべての保護された作業場は閉鎖されるべきだと考えています。彼らは「本当の仕事には本当の給料が支払われる」と信じています。彼らは、知的障害のある人々は正規の雇用市場で雇用されて生計を立てることができるべきだと信じている。さらに、雇用主は障害のある人を雇用することに前向きでなければなりません。仕事上の配慮とサポートが提供される必要がある。賃金と福利厚生は障害のない人と同等でなければなりません。

いつになったらもっと良くなるでしょうか？

カナダのピープル・ファーストは、知的障害を持つ人々には、どこで誰と暮らすかを選択する権利があると信じています。グループホームやグループ施設にとって人気があり合理的な選択肢は、直接資金提供です。直接資金提供は個人のニーズに基づいており、より敬意を持ったプロセスです。

直接資金提供は、資金を機関や地域ではなく個人に結び付けます。資金管理のサポートもごさいます。これにより、本人とその家族にとってより大きな選択と制御が可能になります。直接資金を利用することで、人々はどこに住むかを定めることができ、政府機関の空いているベッドを選択する必要がなくなりました。

施設から最小のグループホームに至るまで、障害のある人々に住居サービスを提供するビジネス産業が存在します。さまざまなサービスを提供する多くの代理店や企業が関与しています。人々にとってうまく機能していないにもかかわらず、このシステムを維持するには多額の管理と資金が必要です。

機関を閉鎖するときは、新しい機関を作らないようにする必要があります。あるいは、昔からの習慣を持ち帰ってみましょう。これはまさに新しい形態の制度化につながるだけです。私たちは住宅支援における制度的パターンを認識し、それを置き換えるために取り組む必要があります。私たちは過去の間違いを避ける必要があります。住宅支援に関する政策を立てる際には、知的障害のある人々の声が必要です。

この記事は、我が国の知的障害のある人々の現状を概観したものです。これは、たとえ障害者コミュニティ内であっても、知的障害のある人々が他の人々と同じ権利やアクセスを享受していないことを示しています。知的障害のある人々は大きな社会問題に直面しています。彼らはグループとして、貧困、失業、ホームレス、性暴力の発生率が最悪であることが多い。彼らは引き続き「未満」とみなされます。一般社会においても、障害者においても、彼らはまさに「取り残された者の取り残された者」である。

障害者全般に対して進歩が見られる場合でも、必ずしも知的障害者が含まれるわけではありません。たとえば、公的知識人であるピーター・シンガーのような人は、知的障害を持つ人々に対して非常に攻撃的な見方をしています。

彼は長年にわたり、知的障害を持つ人々を動物に例えてきました。彼は知的障害のある人を殺しても「大丈夫」だと考えている。

最近では、レイプ事件の被害者とされる人物について発言した。その人は知的障害があるので、とにかく同意できないと言っていました。また、彼らはそもそもレイプされたことを理解できるほど「知的」ではなかったとも述べた。この種の声明は、知的障害のある人々の権利を支持するものではありません。

シンガーのような人だけではない。「r-word」の使用は、障害者コミュニティの外ではあまり異議を唱えられません。私たちの政府の多くは、隔離された有害な支援に資金を提供しています。「目に見えず、心の外に」という理由で、知的障害のある人々の扱いに関する多くの憂慮すべき事実が、あまりにも長い間、一般の人々から隠されてきました。

私たちはもはや、「よくわからない」とは言えません。もうこれ以上改善できないとは言えません。これらの間違いは正され、さらなる虐待は防止されなければなりません。私たちが包括的でアクセスしやすい国になるためには、「取り残された人々」を前進させる必要があります。

この記事を書いたのは誰ですか？

ナタリー・スパニョーロは大学生です。彼女は博士号の取得に取り組んでいます。彼女はカナダ障害者評議会と呼ばれる全国的な障害者団体の一員でもあります。

コリー・アールはカナダのピープル・ファーストの大統領です。コリーさんはカナダ障害者評議会の一員でもあります。

問題: [健康](#)、[医療システム](#)、[ファーマケア](#) | [人権](#) | [不平等と貧困](#)

オフィス: [国家事務所](#)

CCPA 国内オフィス
141 Laurier Ave. West,
Suite 1000
Ottawa ON, Canada K1P
5J3
電話: 613-563-1341

CCPA アップデートを入手する

[メールリストに登録](#)して最新ニュースを受け取りましょう。

フリーダイヤル: 1-844-
563-1341
ファックス: 613-233-1458
電子メール:
ccpa@policyalternatives.ca
メディアに関するお問い合
わせ:
media@policyalternatives.ca

慈善活動登録

#124146473RR0001

© 2023 カナダ政策代替センター | このサイトで何かを使用したいですか? (再) [利用規約](#)をご覧ください。 | ウェブサイトのデザイ

ンと開発 by Raized Eyebrow Web Studios